

教員による学校評価（自己評価）の集計結果と分析及び対策

四條畷学園小学校

平成24年度に実施した教員による学校評価（自己評価）の結果を報告します。

* 自己評価の実施について

- (1) 実施時期 平成24年12月
- (2) 調査対象 小学校本務教員
- (3) 評価項目 教育活動全般及び学校運営に係わる項目について自己評価を実施
- (4) 評価方法 各項目について5段階評価で実施
 - 5：強くそう思う（達成度80～100%）
 - 4：どちらかといえば、そう思う（達成度60～79%）
 - 3：どちらとも言えない（達成度40～59%）
 - 2：どちらかといえばそうは思わない（達成度20～39%）
 - 1：まったくそうは思わない（達成度0～19%）

* 評価の重点目標

- ・ 建学の精神『報恩感謝』
- ・ 教育方針 個性の尊重・明朗と自主・実行から学べ・礼儀と品性
- ・ 平成24年度 小学校 教育指針
 - A 基礎学力の徹底
学習に自信を持たせるよう配慮し、意欲的態度や実行力の基礎養う。
 - B 個性の尊重
一人ひとりの興味関心を大切にし、だれにも自信を持たせる。
 - C 実行力の尊重
子ども自身の活動を重んじ、実行を助け、その結果を常に振り返るように指導する。
 - D 学習内容の精選
子どもの成長の糧となるもの、時代の要請に答えるべきものを見極め、「何をこそ学ばせるべきか」を熟慮探求する。
 - E 自律の手助け
「何を」「どの機会に」しつけるかを熟慮し、生涯にわたる自律の意識を育む指導を行う。
 - F 集団活動の充実
意識的に縦割り集団を組織したり、グループ活動を取り入れたりして「みんなでいっしょに」「高学年を敬う」「低学年を育む」を常に考えさせる。
 - G 幼稚園・中学との円滑な接続
幼稚園や中学校とのつながりを密にし、相互の教育内容を充実させることにより、長期間にわたる同じ方向性を持った指導を行う。
 - H 命を守るための取り組み
自他の命を尊び、安全なくらしを希求する態度を育てるとともに、緊急時の対応を検討することにより、校内の安全性を高める。

* 概評

各項目は、小学校の目標に教員がどの程度到達できたかを自己評価する形式となっております。同時に、項目を保護者及び高学年児童向けのアンケート項目とほぼ同じものにして、両者の比較と検討を続けております。導かれる分析結果を教育目標・教育指針、本年度の重点目標と対照することにより、教育活動を反省し、改善案を次年度の取り組みに反映させようと考えています。

学習面についての集計では、「人権教育体制」「児童会活動」「保健・健康に関する指導」の項目に関して、高い評価結果が得られました。これは、教員がこれらの分野を中心に課題を意識し、熱心に教育活動に取り組んでいることを反映したものといたします。

また、平成25年1月に全国に向けた公開研究会を実施しました。前年度からほぼ2年をかけて、教科、教材の研究を行い、授業力向上をめざしました。次年度は、公開研究会で得られた成果をもとに校内研究会を複数回開催し、継続的に研鑽を深めてまいります。

「授業環境」「読書推進」に関する教員の自己評価は前年度より低く、今後の課題であると考えます。

しつけ面については、前年度に比べすべての項目で自己評価ポイントが下降しましたが、しつけの指針として、「そつぎょうするまでにみんなができるようになること」ポスターを全家庭に配布し、同時に各教室に掲示することにより、つねにこの指針に立ちかえる指導を継続して行っております。指針を配布するようになって、本校のしつけ指導の考え方が保護者に伝わり、家庭と学校の連携のとれた指導が可能になりました。

また、校内放送を利用したマナー教育も行いました。きまりの正しい理解を目的とした「学校のきまり・ああかんちがいクイズ」を9月に実施し、12月には副校長の質問を聞きながら、児童が自己評価する「マナー振り返り」を実施しました。今後さまざまな方法を使って、成果が数値に表れるよう、継続して指導に当たります。

この結果を真摯に受け止め、次年度の重点目標、具体的方策を練ってまいります。いずれにせよ、教員ひとりひとりが結果を自らの課題として考え、解決に向けて意欲的に取り組むことが大切であると考えます。子どもたちの成長を促し、学校の充実・発展をもたらすように努めてまいります。

* 評価の集計と分析

1. 学校運営

評価の観点	評価項目	設問	23年	24年
私学の独自性	建学の精神について	(1) 建学の精神「報恩感謝」をよく理解し、それに基づいて教育を行っている	4.1	4.4
	教育方針について	(2) 教育方針「個性の尊重・実行から学べ・明朗自主」をよく理解し、それに基づいて教育を行っている	4.4	4.5
教育課程	学習指導要領の対応状況について	(3) 教育課程の編成は学習指導要領に沿っている	4.2	4.2
	教科の教育計画について	(4) 年間を通じた教育計画を立て、指導している	4.5	4.6
教職員連携	教員・教科間の連携状況	(5) 教育問題について教員間でよく話し合っ て教育活動が行われている	4.7	4.5

	会議の有効性	(6)職員会議・学年会議・委員会が、情報交換と検討課題の場として有効かつ効率的に機能している	4.4	4.2
財務関係	教育の充実	(7)私学経営の財務状況に関心を持ち、学園の発展を目指して教育活動の充実を図っている	4.0	4.2
情報公開	ホームページの活用状況	(8)学校 HP に公開掲示板で可能な範囲の教育活動や情報を提供している	4.2	4.3
危機管理	危機管理対応状況	(9)緊急時に備え、訓練など学校の安全対策を十分にとっている	4.1	4.2

《学校運営に関する分析⇒(1)～(9)の項目》

学校運営に関する評価については、当面の目標である4.0以上の評価である。

また昨年度と比べ、項目(5)(6)に関しては評価が下がっている。教職員連携は早急に対策が必要である。

2. 教育内容

評価の観点	評価項目	設問	23年	24年
教科指導	学習指導	(10)授業に創意工夫を行い、分かりやすく授業を行っている	4.3	4.3
	授業環境について	(11)児童の学習意欲を高め、学力を向上させる授業を実践している	4.3	4.3
		(12)授業を受ける基本的な態度・マナーを身につけて指導している	4.3	4.1
情報教育	情報モラル教育	(13)情報発信に伴う責任など、情報モラルの教育に取り組んでいる	3.7	3.7
人権教育	人権教育体制	(14)周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践している	4.4	4.6
		(15)人権にかかわる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践している	4.1	4.3
環境教育	実践的態度の育成	(16)自然を大切にすると環境を保全しようとする態度を育てている	4.2	4.3
保健教育	保健・健康に関する指導	(17)心身共に健康で安全な生活を送るための行動や態度を養っている	4.5	4.7
生徒会活動		(18)児童が主体的に活動できるように取り組んでいる	4.5	4.6
その他	読書推進	(19)読書タイムの実施・図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる	4.5	4.3

《教育内容に関する分析⇒(10)～(19)の項目》

教育内容に関する評価については、(13)の情報教育を除き、当面の目標4.0以上の評価である。ここでは、人権教育や保健教育の評価が高い。

3. 生徒指導・生徒支援

評価の観点	評価項目	設問	23年	24年
生徒指導 生徒支援	生徒指導について	(20)生活の基本である時間を守るという指導を行っている	4.8	4.6
		(21)挨拶をはじめとして礼儀を重んじる生活態度を養う指導を行っている	4.7	4.6
		(22)生活面の規則・ルールを理解させ守らせている	4.4	4.3
		(23)児童に清掃、校内美化に取り組むよう指導している	4.2	4.0
	家庭との連携状況	(24)家庭と学校との協力と連携の下に生徒指導を行っている	4.3	4.2
	学習支援について	(25)学習の遅れている児童への支援を行っている	4.3	4.1
	カウンセリングマインド	(26)児童が抱えている問題に対して、一人ひとりを大切にしたいきめ細かい相談・指導を行っている	4.3	4.3
進路指導について	(27)個々の児童に応じた希望・目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行っている	3.9	4.0	
内部進学について	(28)内部進学を希望する児童には積極的に支援している	4.2	4.0	

《生徒指導・支援に関する分析⇒(20)～(28)の項目》

生徒指導・支援に関する評価については、全体的に高評価であり、当面の目標である4.0以上の評価である。

4. 教員研修・資質向上

評価の観点	評価項目	設問	23年	24年
教員研修	教員の資質向上について	(29)教員間で授業内容を評価したり、生徒指導のあり方等、指導方法について意見交換を行う機会がある	4.5	4.5
	校内研修	(30)効果的な校内研修計画を立案し、計画的に教職員に研修を実施している	4.5	4.5
	研修成果の共有状況	(31)研修・研究に参加した成果を他の教員に伝えて、情報を共有する体制が整理されている	4.5	4.3

《教員研修・資質向上に関する分析⇒(29)～(31)の項目》

教員研修・資質向上に関する評価については、当面の目標である4.0以上の評価である。

(29)(30)の項目については評価が高く、その改善に努力した成果が見える。今後より一層の強化に努め、個々の教員が研修に参加した成果を共有し、教員の資質向上に努めたい。